

高校存続へ

2005年度、少子化の影響と学区の再編により、入学者が33人に減少します。

町はこれまでの奨学金の支給に加え、町職員採用特別枠の設定、進学者への入学金支給、自動車運転免許取得費の補助、中学校へのPR活動など、入学者増を目指してさらに支援を強めました。

2006年度には関係機関などによる「新得高等学校を存続させる会（会長・浜田正利新得町長）」を立ち上げ、存続を求める要請活動を展開。町内外から1カ月で集まった1万87筆の署名簿と要請書を北海道教育委員会に手渡し、小規模高校の必要性を訴えました。

願い叶わず… 新得高校70年の歴史に幕

町ぐるみで支援・要請活動を進めてきましたが、町民の願いは叶わず、2012年度募集から1間口減が決定。

その後、2014年9月に北海道教育委員会が発表した公立高等学校配置計画により、2017年度からの募集停止が正式に決定されました。

この募集停止により、2019年3月に最後の卒業生を送り出し、新得高校は閉校することになりました。



最後の行灯に 想いを込めて

平成30年7月14日、第55回新高祭が開かれ、恒例の行灯行列が町をねり歩きしました。

この行灯行列は定時制時代の1955年に独立校舎完成を記念して行われた仮装行列がもとになっており、新得高校の伝統行事として長年地域に親しまれてきました。

最後の行灯行列には生徒のほかOB・OG、役員職員も参加し、それぞれの想いを込めた4基の行灯がまことに明かりをともしました。

「私たちはここにいる」生徒の作品には英語でそう刻まれていました。

2004（平成16）年

- 北海道教育委員会「夢と活力溢れる高校づくり推進事業（北海道ネイチャーハイスクール）」指定校
- 2005年度まで

2007（平成19）年

- 2コース制を導入
- 募集1間口減

2013（平成25）年

- 北海道教育委員会「いじめ未然防止プログラム」指定
- 2016年度まで

2014（平成26）年

- 2017（平成29）年度以降の入学生募集停止が決定

2018（平成30）年

- 閉校記念式典及び感謝の集いを開催

2019（平成31）年

- 全日制第55回卒業式
- 北海道新得高等学校閉校

校歌

作詞 阿部 戸一
作曲 伊福部 昭

一 白雲の 湧き立つところ
開拓の 歴史を 裏けて
若き血に 溢れる我等
新しき 理想の芽生え
豊かなる 郷土に育み
いざや開かん 香り高く
新得高校 讃えよその名

二 大雪の 嶺に憧れ
拓北を 生命とさだめ
若き血に 勢えり我等
新しき 世紀を創る
美しき この学舎に
いざや励まん 希望高く
新得高校 栄えよその名

三 北斗なる 星座をみつめ
朔風の 試練に耐えて
若き血に 燃えたつ我等
新しき 文化の炬火
発刺の 力をこめて
いざや翳さん 深空高く
新得高校 輝けその名

新高の自信と誇りを胸に。

3月1日、北海道新得高等学校全日制第55回卒業式が挙行され、生徒13人が卒業証書を手に入れました。

岩田努校長は式辞で「PTA、後援会、同窓会、振興会、地域の皆様方の温かいご支援に支えられ、年々減っていく教職員が増えたかのようにお力をお寄せいただきました。卒業生の皆さんには新得高校で培った自信と誇りを胸に、次のステージでもそれぞれのベストを尽くし、周囲から信頼され、愛される人間に成長することを願います」と述べました。

最後の生徒が卒業



大坂響生徒会長は「先生方は授業に参加して人数の少なさをカバーしながら、熱心に進路相談をしてくださいました。支援学校の生徒・先生がいてくれたおかげで私たちの学校生活はとて有意義なものとなりました。陰で私たちを支え、毎日弁当を作り1日のエネルギーを作ってくれた親の方々。私たちはたくさんの人たちに支えられ、今日卒業することができました。お世話になった先生方、家族、ともに成長した友達、新得町の皆様、本当にありがとうございます。涙をこらえ力強く旅立ちの言葉を述べました。

長い役目を終えた校旗は、式終了後に竹浦隆同窓会長の手により、新設された資料室へと納められました。

最後は笑ってお別れ

卒業式終了後、PTA主催による卒業生を祝う会が町公民館で開かれました。

卒業生や保護者、教員が参加し、食事を囲みながら新得高校にまつわるクイズや教員のバンド演奏などで楽しいひと時を過ごしました。

最後に卒業生担任の吉田佑輔教諭に生徒ひとりひとりから感謝の言葉と花が贈られました。

